

栽培種目：ナス（とげなし千両、ミズナス、庄屋大長）

ナスの無農薬栽培と連作栽培(連作5年目)

チーム名：

氏 名：加藤亜紀子（2-I）

〈要約〉

ナス3種（とげなし千両、ミズナス、庄屋大長、各2株一タキイ種苗）を昨年と同じ場所で栽培する。

今年は苗の並びを前後にずらし、風通し、日当たりを確保する。とげなし千両 No1 の枝1本がしおれたので切断し脇芽を伸ばす。

6月23日（水）例年のように葉の黄変が出現する。収穫は昨年並み。

1. 初めに

5月13日（木）にナス3種6株を移植する。今年はナスのみとするが、途中よりカボチャが侵入したがそのままにする。カボチャは3個収穫する。

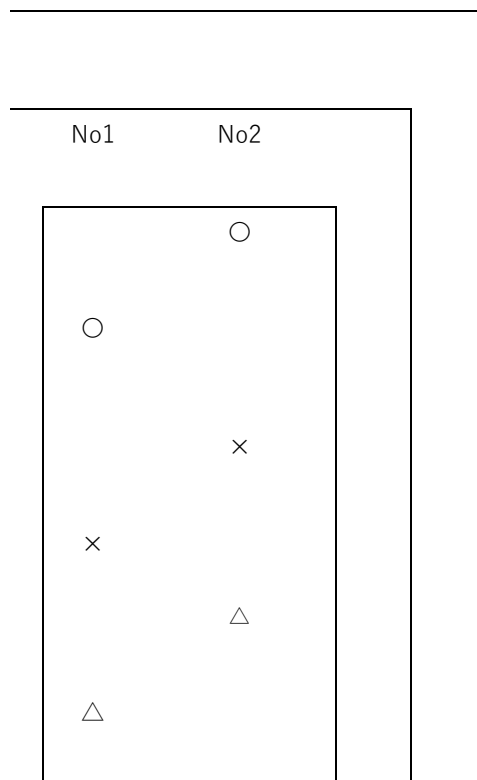
2. 方法、経過

3月25日（木）、予定地にミリオン、もみ殻燻炭、マスコバト糖、貝石灰、ヌカを鋤き込み、草マルチして生ゴミを撒く。

苗は、風通し、日当たり等を考慮して少しずらして植える。

5月13日（木）に移植。6月6日（日）とげなし千両 No1 の枝がしおれたので切断するも、脇芽は順調に生育。

6月23日（木）より、葉の黄変が出現する。ヨーグルト液にて回復を図る。



○ とげなし千両 × ミズナス

△ 庄屋大長

施肥は2017年以降も含めて表1の通り。

表 1 施肥回数(2017～2021 年)

	2017	2018	2019	2020	2021	
ヌカ+マ			1	2		
牛乳+マ	1		3			
ヨーグルト+マ	1	6	7	8	10	
酒粕+マ			2			
牛乳+ヨーグルト+マ	6					
ヌカ+コーラル+マ	6					
生ゴミ～			4	2	2	
生ゴミ+ヌカ+コーラル+マ	3					
ミカンの皮+ヌカ+コーラル+マ	3					
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+ヨーグルト+マ			3			
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+酒粕+マ			1			
木(竹)酢液	7	2	2	2		
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+マ		7	1	3	5	
ヌカ+コーラル+草+マ		2	7	3	1	
ミネラル液肥		6		3		
クエン酸		1	3			
Mgの粒		1				
酒粕+ヨーグルト+マ				1		
生ゴミ+ヌカ+コーラル+草+酒粕+ヨーグルト+マ				1		
生ゴミ+草マルチ					3	
草マルチ					6	
合 計	27	25	34	25	27	

マ：マスコバト糖（黒砂糖） 草：草木灰

2020 年は、ミネラル液肥（シュルツ液肥）を 3 回（8/10、8/18、8/26）、8 月に高温が続いたためヨーグルト液を 2 回（8/4、8/8）を撒いた。液肥はこの 5 回のみ。

2021 年は、ヨーグルト液を 5/31～9/21 の間に 10 回撒いた。肥料は草マルチ、生ゴミだけとして、なるべく肥料分を減らしました。

3. 結果

表 2 収穫結果

		2017	2018	2019		2020		2021		
とげなし千両	No1	30	36		27		60		49	
	No2	17	35		28		45		85	
ミズナス	No1	17	20		28	▲ 1	42		37	
	No2	11	46		41		19		39	
庄屋大長	No1	31	33	▲ 2	38	▲ 2	41		36	▲ 3
	No2	26	28	▲ 1	47	▲ 2	52	▲ 1	34	
合 計		132	198	▲ 3	209	▲5	259	▲ 1	280	▲ 3

▲：台風被害、実割れ、食害等

収穫期間 2017年：6/20～9/14 2018年：7/2～9/29 2019年：6/22～9/30
2020年：6/29～10/6 2021年：6/26～10/24

今年は収穫期間が長かったので、収穫は前年並みと考える。

4. 考察

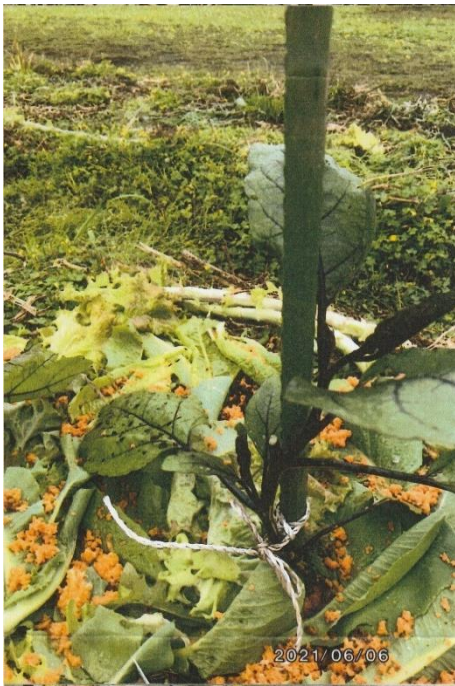
葉の黄変は、同じように準備した大玉トマトの葉枯れの出現により、肥料不足だと考えます。初期に肥料を十分投入し株の充実を図り、その後は様子を見ながら肥料を撒いていくことが大切と痛感致しました。また、8月中旬の長雨、9月に入った途端の低温と、天候不順の割に収穫はよかったと思う。

5. まとめ

叢生栽培なので、なるべく肥料を減らし草との共生を目標としてナスで試みています。なかなか難しかったが、ナスとトマトの葉の黄変で、初期から中期にかけてしっかり肥料を投入すれば、後期は入れなくても大丈夫そうだと考えます。これからも投入のタイミングを見極められるよう努力したい。



とげなし千両 No1



とげなし千両 No1 の枝を切断し、草マルチ、
生ゴミを撒く